

開会挨拶：(公財) 関西文化学術研究都市推進機構常務理事・事務局長 中川雅永

みなさんこんにちは。関西文化学術研究都市推進機構の常務理事をしております中川でございます。本日は、まだ大変暑い中、またお仕事もお多忙中、お集まりいただき、本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。平素はけいはんな学研都市、また推進機構の業務に、大変御理解をいただき、御協力をいただき、これに関しまして厚く御礼を申し上げます。

ご案内のとおり、学研都市は昨年、建設促進法が公布・施行されて30年ですけれども、次の30年に向けて様々な取り組みをしております。特にイノベーションの拠点創出と言うことで、色んなお知恵を色んな方からいただきながら、我々ができることを、これからも進めて行きたいと考えております。

施設の立地数については、お蔭様で140を超え、人口も25万人を超え、9万人の方が新しい住民として入ってきていただいているわけです。研究者の方も、従業員の3分の1を超えるということで、世界のサイエンスシティに向けて、色々と状況が整ってきているところです。また、産官学、また住民の方も含めての連携がとれて、その成果も出てきているのではないかと考えています。



今後も、世界の先端的な研究シーズや技術力をお持ちの研究機関や企業様、行政の方々、住民の方々による連携により、更なる発展につなげたいと考えています。

そうした取り組みの一つとして、本日は先端シーズフォーラムと言うことで、学术界や、あるいは企業様の専門家をお招きして、様々な分野の先端的な研究成果をお話いただき、意見交換もさせていただくことを、この何年間やってきています。

今回は、「超音波が切り拓く新たな世界 強力超音波による“見る・動かす・測る“の先端」というテーマでございまして、様々な活用されている超音波の技術の中でも、強力な超音波を中心に、それぞれのご研究や開発の一端をご紹介いただければと思います。

私も不勉強ですが、超音波については小さい頃に潜水艦が好きで、ソナーがどのようにして出ているのかなどに非常に興味を持っていた時期もあります。一説には1800年代前半にフランスの物理学者により、その存在が確認されたということでございますが、20世紀の100年を通じて技術が確立されてきていることですが、動力やエネルギー、情報通信の手段、医療の分野もあろうかと思いますが、現代社会の様々な分野で活用されています。その歩みは止まることなく、新たな活用が生まれているということで、ある意味、「古くて、新しい技術」と言えるかもしれません。

今回は、それぞれの研究や開発における様々な創意と工夫、苦心された点も講師の先生方にご紹介いただけたらと思います。

日本の国も、2015年の国連サミットで採択されたSDGsという17の大きな目標があります。この中で「産業と技術革新の基盤をつくる」のが目標の一つです。これにもつながるということです。今回は非常にお忙しい中、同志社大学の小山先生、日本大学の大隅先生、そして株式会社ジーネスの大久保先生と、3人の専門家にご参加いただきました。本当にありがとうございます。

それぞれのご専門の一端をお聞かせいただけたらと思いますので、私も楽しみながら、あらためて勉強させていただきたいと思います。

また、ご講演後のディスカッションでは、限られた時間となりますが、会場からご質問をいただき、各先生方とご意見交換をしていただければと思います。先生方も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日もご参加の皆さまが、このフォーラムにご参加され、皆さまのお仕事において、何か新たな取り組みのヒントを得る機会となることを祈念しております。

事前にお申込みの方には、この講演のあと、5時頃と思いますが、隣室にて小さな「交流会」を開催する予定です。今回のフォーラム全体を通じて、新たな“ご縁”が繋がりと、将来の新産業創出につながる機会になりましたら幸いです。

最後になりますが、今後の関西経済をはじめとする経済の発展に向けた契機となること、また、本日お越しの皆さま方や会社の方がますますご発展すること、また皆さまのご健勝を祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。